

## **[成果情報名]冷蔵施設を用いた低温処理によるクリスマスエリカの早期出荷技術**

**[要約]** 本県オリジナル品目であるクリスマスエリカは、整枝を終えた4号鉢を8月上旬に5℃で5日間の低温処理を行うことにより、慣行栽培より出荷を1~2週間早めることができる。

**[担当]** 総合農業技術センター・高冷地野菜・花き振興セ・八ヶ岳試験地・加藤成二

**[分類]** 技術・普及

---

### **[背景・ねらい]**

本県オリジナル品目であるクリスマスエリカは、スズランエリカをクリスマスツリー状に仕立てた鉢花であるが、需要期のクリスマスシーズンに出荷するためには、夏の高温期に県内の高標高地で栽培を行う上山が必要であった。しかし上山地の確保が困難なことや、かん水等の管理労力を要することから、上山に頼らない早期出荷技術が求められている。そこで、夏季に利用していない冷蔵施設を有効利用するため低温処理による早期出荷について検討する。

### **[成果の内容・特徴]**

1. クリスマスエリカの4号鉢を7月上中旬までに最終剪定を終え、冷蔵施設で5℃の低温処理を5日間行うことで開花が早まる(表1、写真1)。これにより出荷は1~2週間早まり、11月下旬から12月中旬のクリスマスシーズンに出荷が可能となる(表1、表2)。
2. 冷蔵施設への入庫開始時期は、8月上旬で最も効果が高く(表1、表2、写真2)、入庫がそれより早いと開花促進効果は認められない(表2)。

### **[成果の活用上の留意点]**

1. 低温処理期間中は、鉢が乾きやすいため、底面かん水等による適切な管理が必要となる。
2. 低温処理期間中は、電球色LED(色温度2,700K)を用い、明期12時間の照射を行った。

### **[期待される効果]**

1. クリスマスエリカの早期出荷が可能となるとともに、経営安定が図られる。
2. 上山が不要になり、管理労力が軽減される。

[具体的データ]

表1 低温処理期間が開花および出荷適期に及ぼす影響(2018)

処 理	入庫日	出庫日	処理期間	第1花開花日	出荷適期 <sup>z</sup>	出荷率(%) <sup>y</sup>
低温処理	8月10日	8月15日	5日	11月5日	11月21日 ( -14 )	100
		8月20日	10日	11月12日	11月21日 ( -14 )	100
	8月24日	8月29日	5日	11月26日	12月5日 ( 0 )	100
		9月3日	10日	11月30日	12月12日 ( 7 )	100
	9月7日	9月12日	5日	11月30日	12月12日 ( 7 )	100
	9月10日	9月20日	10日	11月28日	12月12日 ( 7 )	100
	9月21日	9月26日	5日	11月30日	12月12日 ( 7 )	100
		10月1日	10日	12月2日	12月12日 ( 7 )	100
対 照				11月27日	12月5日	100

z: 開花が30%となった株が全体の50%に達した時期 (内は対照との差)

y: 出荷期限(12月15日)までに出荷が可能となった株の割合

※調査場所 北杜市明野町



写真1 冷蔵施設での低温処理

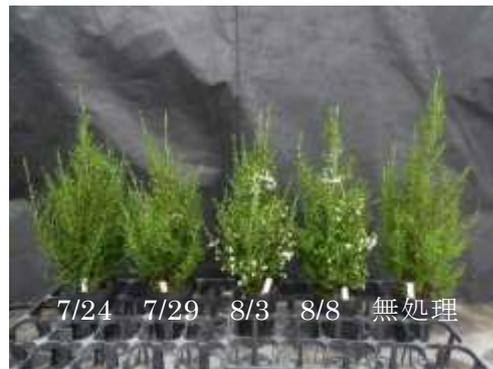


写真2 冷蔵処理による開花促進効果

(2019年11月22日撮影)

表2 低温処理が開花および出荷適期に及ぼす影響(2019)

処 理	入庫日	出庫日	処理期間	第1花開花日	出荷適期 <sup>z</sup>	出荷率(%) <sup>y</sup>
低温処理	7月24日	7月29日	5日	12月4日	12月16日 ( 0 )	10
	7月29日	8月3日	5日	12月5日	12月16日 ( 0 )	40
	8月3日	8月8日	5日	11月14日	12月8日 ( -8 )	100
	8月8日	8月13日	5日	11月17日	12月8日 ( -8 )	90
対 照				12月5日	12月16日	40

z: 開花が30%となった株が全体の50%に達した時期 (内は対照との差)

y: 出荷期限(12月15日)までに出荷が可能となった株の割合

※調査場所 北杜市高根町

**【その他】**

研究課題名: 山梨ブランド花きの用土開発による品質向上技術の確立

予算区分: 県単 研究期間: 2017~2019年度

研究担当者: 加藤成二、山口優子、中澤滋芳